

IC7300ユーザーコマンド説明

ユーザーコマンド参考例 (IC7300__t c . t x t)

04<05+2, 4=04>

0604<05>

140A<05+4, 4=140A>

140A0026<05>

03<05+2, 10=03>

1C0001<05>

1512<05+4, 4=1512>

1C0000<05>

140A<05>

06<05>

980, 50, 1

1C00<05+4, 2=1C00>

01

<内容の詳細>

1：現在モードの読出し

04<05+2, 4=04>

・ ・ 送信 [04], 0.5秒待機, インデックス2から4文字記憶, 受信先頭文字 [04] (他の返信は無視)

●運用モードデータ

コマンド：01、04、06



① 運用モード		② フィルター設定
00：LSB	05：FM	01：FIL1
01：USB	07：CW-R	02：FIL2
02：AM	08：RTTY-R	03：FIL3
03：CW	—	—
04：RTTY	—	—

※コマンド01、06では、フィルターデータは省略できます。
省略した場合、コマンド01ではFIL1、コマンド06では指定運用モードのデフォルトフィルター設定が選択されます。

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdfより抜粋)

2：チューニングモード設定

0604<05>

・ ・ 送信 [0604], 0.5秒待機 (返信は無視)

●運用モードデータ

コマンド：01、04、06



① 運用モード		② フィルター設定
00：LSB	05：FM	01：FIL1
01：USB	07：CW-R	02：FIL2
02：AM	08：RTTY-R	03：FIL3
03：CW	—	—
04：RTTY	—	—

※コマンド01、06では、フィルターデータは省略できます。
省略した場合、コマンド01ではFIL1、コマンド06では指定運用モードのデフォルトフィルター設定が選択されます。

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdfより抜粋)

3 : チューニングモードにおける現在の出力読出し

140A<05+4, 4=140A>

- ・ ・ 送信 [140A], 0.5秒待機, インデックス4から4文字記憶, 受信先頭文字 [140A]

(他の返信は無視)

コマンド	サブ	データ	動作
14*	02	0000~0255	RFゲインの設定 ※0000=最小~0255=最大
	03	0000~0255	SQLレベルの設定 ※0000=最小~0255=最大
	06	0000~0255	NRLレベルの設定 ※0000=0%~0255=100%
	07	0000~0255	TWIN PBT (内側)の設定 ※0000=上側を狭くする, 0128=センター, 0255=下側を狭くする
	08	0000~0255	TWIN PBT (外側)の設定 ※0000=上側を狭くする, 0128=センター, 0255=下側を狭くする
	09	0000~0255	CW PITCHの設定 ※0000=300Hz, 0128=600Hz, 0255=900Hz(5Hzピッチ)
	0A	0000~0255	RF POWERの出力設定 ※0000=最小~0255=最大
	0B	0000~	MICゲインの設定

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdf より抜粋)

4 : チューニング出力設定

140A0026<05>

- ・ ・ 送信 [140A0026], 0.5秒待機 (返信は無視)

「0026」で10% (255=100%) を設定しています。

コマンド	サブ	データ	動作
14*	02	0000~0255	RFゲインの設定 ※0000=最小~0255=最大
	03	0000~0255	SQLレベルの設定 ※0000=最小~0255=最大
	06	0000~0255	NRLレベルの設定 ※0000=0%~0255=100%
	07	0000~0255	TWIN PBT (内側)の設定 ※0000=上側を狭くする, 0128=センター, 0255=下側を狭くする
	08	0000~0255	TWIN PBT (外側)の設定 ※0000=上側を狭くする, 0128=センター, 0255=下側を狭くする
	09	0000~0255	CW PITCHの設定 ※0000=300Hz, 0128=600Hz, 0255=900Hz(5Hzピッチ)
	0A	0000~0255	RF POWERの出力設定 ※0000=最小~0255=最大
	0B	0000~	MICゲインの設定

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdf より抜粋)

5 : 現在の周波数読出し

03<05+2, 10=03>

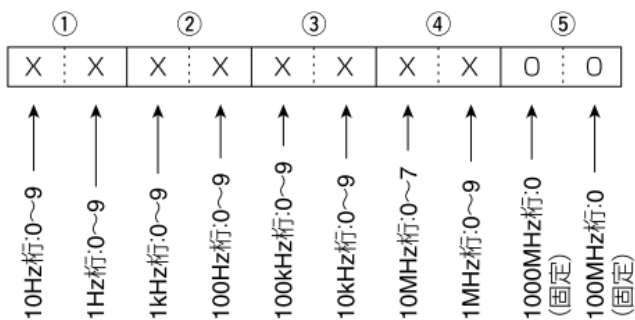
・ ・ 送信 [03], 0.5秒待機, インデックス2から10文字記憶, 受信先頭文字 [03] (他の返信は無視)

コマンド	サブ	データ	動作
00		P.8参照	周波数データの設定(トランシーブ)
01		P.8参照	運用モードの設定(トランシーブ)
02		P.8参照	バンドエッジ周波数の読み込み
03		P.8参照	表示周波数の読み込み
04		P.8参照	表示キーの読み込み

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdfより抜粋)

● 運用周波数データ

コマンド : 00、03、05、1C 03



(IC-7300_JPN_Supp_5. pdfより抜粋)

6 : 送信の開始

1C0001<05>

・ ・ 送信 [1C0001], 0.5秒待機

コマンド	サブ	データ	動作
1C	00*	00	送受信の切り替え 受信 *CI-V出力(アンテナ用)項目設定(コマンド: 1C 04)がONのときは、変化時に自動で 出力
		01	送受信の切り替え 送信 *CI-V出力(アンテナ用)項目設定(コマンド: 1C 04)がONのときは、変化時に自動で 出力
	01*	00~02	アンテナチューナーの設定

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdfより抜粋)

7 : SWR 値の読出し・・・ (AH4 インターフェース時は非実行)

1512<05+4, 4=1512>

- ・・・送信 [1512], 0.5秒待機, インデックス4から4文字記憶, 受信先頭文字 [1512]
- ・・・実際の内部はプログラム上のサイクルで読み出しています。
- ・・・SWR 安定認識後から待機時間で次の処理に移行します (他の返信は無視)

15	01	00/01	ノイズスケルチ、またはSメータスケルチの読み込みの状態 ※00=Close、01=Open
	02	0000~0255	Sメーターレベルの読み込み ※0000=S0、0120=S9、0241=S9+60dB
	05	00/01	各種スケルチ機能(トーンスケルチなど)を含めたスケルチの読み込みの状態 ※00=Close、01=Open
	07	00/01	OVF Indicatorの読み込み ※00=消灯、01=点灯
	11	0000~0255	Paメーターレベルの読み込み ※0000=0%~0143=50%~0213=100%
	12	0000~0255	SWRメーターレベルの読み込み ※0000=SWR1.0、0048=SWR1.5、0080=SWR2.0、0120=SWR3.0

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdfより抜粋)

8 : 受信に移行

1C0000<05>

- ・・・送信 [1C0000], 0.5秒待機

1C	00*	00	送受信の切り替え 受信 ※CI-V出力(アンテナ用)項目設定(コマンド: 1C 04)がONのときは、変化時に自動で出力
		01	送受信の切り替え 送信 ※CI-V出力(アンテナ用)項目設定(コマンド: 1C 04)がONのときは、変化時に自動で出力
	01*	00~02	アンテナチューナーの設定

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdfより抜粋)

9 : チューニングモード出力の復元

140A\$\$\$\$<05>

- ・送信 [140A] (\$\$\$\$:③での受信文字列), 0.5秒待機 (返信は無視)

コマンド	サブ	データ	動作
14*	02	0000~0255	RFゲインの設定 ※0000=最小~0255=最大
	03	0000~0255	SQLレベルの設定 ※0000=最小~0255=最大
	06	0000~0255	NRLレベルの設定 ※0000=0%~0255=100%
	07	0000~0255	TWIN PBT (内側)の設定 ※0000=上側を狭くする、0128=センター、0255=下側を狭くする
	08	0000~0255	TWIN PBT (外側)の設定 ※0000=上側を狭くする、0128=センター、0255=下側を狭くする
	09	0000~0255	CW PITCHの設定 ※0000=300Hz、0128=600Hz、0255=900Hz(5Hzビッチ)
	0A	0000~0255	RF POWERの出力設定 ※0000=最小~0255=最大
	0B	0000~	MICゲインの設定

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdf より抜粋)

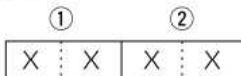
10 : モードの復元

06\$\$\$\$<05>

- ・送信 [06\$\$\$\$] (\$\$\$\$:①での受信文字列), 0.5秒待機 (返信は無視)

●運用モードデータ

コマンド : 01、04、06



① 運用モード		② フィルター設定
00 : LSB	05 : FM	01 : FIL1
01 : USB	07 : CW-R	02 : FIL2
02 : AM	08 : RTTY-R	03 : FIL3
03 : CW	—	—
04 : RTTY	—	—

※コマンド01、06では、フィルターデータは省略できます。省略した場合、コマンド01ではFIL1、コマンド06では指定運用モードのデフォルトフィルター設定が選択されます。

(IC-7300_JPN_Supp_5. pdf より抜粋)

* : S W R 読出し時の完了検出パラメータ

980, 50, 1 N, n、M

N : 読出し10回での値の総和がこの設定値以下になればS W Rが下がったと判断

n : 読出し10回での値の変化値の総和がこの設定値以下ならほぼ安定と判断

M : Y a e s u = 0、I C O M = 1、K e n w o o d = 2を指定してください

N:980、n:50は例としての値です・・・実機確認でそこそこうまく動作している値です。

値はS W R値2のリグ返信値(80) × 10程度を設定

nは1回目と2回目の変化値+2回目と3回目の変化値+・・・9回目と10回目の変化値として変化した値の総和を計算します。800設定の場合はここの変化が8程度のばらつきでほぼ安定したと判断します。

上記の設定でS W Rが2.5以下でほぼ安定すればチューニングOKと判断です。

テストアンテナでの実測安定動作値ですので、環境に合う値を設定してください。

* S W R ・ S a f e t y ・ ・

キャリアコントロールタイプ等チューナー使用時の不用意な高出力での運用でチューナーの破損をできるだけ防ぐように、Hi SWR 検出時リグの出力を調整出力に低減します。

使用しない場合はこの2つの設定は無しでもかまいません。また設定していても無線L a n から設定出来る S W R 値を「0000」にしておけばこの動作は無効O F Fになります。

1C00<05+4, 2=1C00>

下記コマンドでの送受信状態を読み出します。

1C	00*	00/01	送受信の切り替え設定 ※00=受信、01=送信
	01*	00~02	アンテナチューナーの設定 ※00=OFF、01=ON、 02=強制チューン
	02*	00/01	XFC(送信周波数チェック)の設定 ※00=OFF、01=ON
	03	P.17参照	送信周波数を読み込む
1E	00		無線機本体の送信帯域数を読み込む

応答は送信時「1C0001」になります。応答文字列のインデックス4番目から2文字を取り出し判断の対象とします。

01

送信中を表す文字列を設定します。

上記コマンドでの応答が「01」で送信中と判断し、その後現在の出力読み出し・SWR値の読み出しで、設定されたSWR値を超えていた場合調整出力に低減して、ステータスLEDを点滅させます。受信に移行した時点で読み出していた出力に復元します。